

地球流体データのデータ管理、解析、可視化のためのデスクトップツール兼サーバー「Gfdnavi」の概要および将来構想

Introduction and Future Plan of the Desktop Tool and Server for Data Management, Analysis and Visualization

西澤 誠也 [1]; 堀之内 武 [2]; 渡辺 知恵美 [3]; 森川 靖大 [4]; 神代 剛 [5]; 石渡 正樹 [6]; 林 祥介 [4]; 塩谷 雅人 [7]

Seiya Nishizawa[1]; Takeshi Horinouchi[2]; Chiemi Watanabe[3]; Yasuhiro Morikawa[4]; Tsuyoshi Koshiro[5]; Masaki Ishiwatari[6]; Yoshi-Yuki Hayashi[4]; Masato Shiotani[7]

[1] 京大・数理研; [2] 京大・生存圏研; [3] お茶大・理・情報; [4] 北大・理・宇宙理学; [5] 京大・生存研; [6] 北大・地球環境; [7] 生存研

[1] RIMS, Kyoto Univ.; [2] RISH, Kyoto Univ.; [3] none; [4] Department of CosmoSciences, Hokkaido Univ.; [5] RISH, Kyoto Univ.; [6] Faculty of Environmental Earth Science, Hokkaido University; [7] RISH

<http://www.gfd-dennou.org/arch/davis/gfdnavi/index.htm>

近年の地球・惑星観測機器や計算機の急速な発展により、我々が扱う数値データは爆発的に増大している。現状では、各研究者が解析・可視化に使用するツールと、データ提供サーバーは、まったく別のものであり、それぞれの機能は、データをファイルの形でダウンロードするという操作をばさんで、断絶している。データ提供サーバーが、解析・可視化機能を提供している場合もあるが、それらは簡単なものである場合が多く、基本的には、データをダウンロードして個別に解析・可視化を行うことが想定されている。また、サーバー間の連携も乏しい。

本研究では、ネットワーク上でのデータサービスからデスクトップでの利用まで、包括的に扱うことができる、新しいタイプのツールを開発した。これにより、データの所在場所に関わらず、データの検索・絞りこみから解析・可視化をシームレスに行うことができる。さらに、数値データと、知見データの融合や、サーバー間の横断的利用を可能にする予定である。